

# 特定非営利活動法人 あおーら

2022年度事業報告（2022年4月1日～2023年3月31日）

## 1. コロナ禍のサービス提供

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況が続き、感染防止の基本的な対策を継続し、安心・安全なサービスの提供に努めた。5事業所で14名（利用者5名・職員9名）が陽性となり、2事業所で一時的に事業所の閉鎖を余儀なくされた。

あおーら祭りや研修旅行、クリスマス会など、利用者の方や職員が一同に会する行事はほとんど中止せざるを得なかった。年度末になり新型コロナウイルスの感染拡大が収まりつつあり、諸行事の再開が待たれる。

感染症発生時の業務継続に備えるため、「感染症対策のための指針」を策定した。

## 2. 法人資源の有機的活用

法人は、生活訓練から就労に係る支援、地域生活を支援する地域活動支援センターなどの事業を8か所で運営している。複数の福祉サービスを組み合わせた利用など、法人資源の有機的な活用に努めた。

ヨガ教室やソフトバレー、パソコン教室、勉強の日などは、事業所の枠を超えて参加できるプログラムとして取り組んだ。

## 3. 事業再編の効果

コロナ禍で一部に作業の減少が見られたが、就労支援事業収入は354万円、15.9%伸ばすことができた。新しく就労継続支援事業に変更した「すみれ」は、地域に密着した事業所として「SHOPすみれ」を開設し、地域の方との交流を深めている。

事業再編は、財政面でも法人の収益の改善に大きく貢献することになった。

## 4. プログラムの見直し

利用者の方に提供する各事業ごとのサービス(プログラム)について、利用者の方に真に必要なサービスの提供という観点から見直しを行い、職員間で目標を再確認し、チームとしての支援力のアップに務めた。

## 5. みなくる倶楽部との協働

毎週土曜日のフリースペースをはじめ、精神保健福祉フォーラムの開催、ピアサポーターの育成に当事者会「みなくる倶楽部」と共に取り組んだ。

埼玉県立常盤高等学校の生徒向けにピアサポーターのメンバーが3回の講演を行い、南飯能病院デイケア室と交流した。

## 6. 家族会との協働

毎週水曜日の家族会の相談会に場所を提供し、代表理事が参加し役割を果たした。

家族会、障害福祉課との共催で「親亡き後を頼れる医療福祉」と題し、4回に渡って学習会を開催した。継続を望む声が多く、ニーズに合った学習会だった。10月10日世界メンタルヘルスデーに併せ、当事者会・家族会による合同作品展を開催し多くの来場者があった。